西園小

「学びに向かう力の育成」

～課題を自分事にする授業づくりを通して～

（３年計画の１年次）

校長　　楢　木　　慎　一

１　研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

本校では、教育目標に「めあてをもって生き生きと学ぶ子に」、努力目標に「進んで楽しく学ぶ」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。今年度は学校目標を「自ら課題に向かう　西園っ子（決めて挑戦）」とした。その具現化のために、課題解決に向けて共に考え、学習活動を振り返ることで身に付けた力を自覚したり、新たな課題を設定したりできる「学びに向かう子」の育成を目指している。

(2) これまでの研究経過から

本校では研究主題を「学びに向かう力の育成」と設定し、「学びに向かう力」を、「見通しをもって学習に取り組む力」「他者との関わりの中で、自分の考えを広げ、深める力」「学習活動を振り返って次につなげる力」ととらえ、授業実践に取り組んだ。

その結果､導入場面における課題の焦点化から､課題への必要感をもたせることができたことや、振り返りの項目提示から学習した内容を意識させたり次時への意欲付けが図られたりしたことが成果として挙げられた。しかし、課題の難易度によってあきらめたり、学習意欲を維持することが難しかったりする姿が見られた。

そこで、今年度は学びを自分事としてとらえさせることを重点とし、研究を展開していく。児童が自ら課題を発見し、問題解決に向かうための「見通し」をもたせる手立てを意識した研究実践を積み重ねることで、学びに向かう力が育つと考えられる。

２　研究のねらい

児童が学びを自分事としてとらえるための手立てを工夫することにより、学びに向かう力を育成できることを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

学習に対する見通しをもたせる際の手立てを工夫することで、児童一人一人が学びを自分事としてとらえることができ、学びに向かう力を育成することができる。

４　研究内容

研究のねらいを達成するために、支持的雰囲気の学級づくりを基盤に、次の３つの内容から学習課題設定の工夫を選択し、取り入れた授業実践を通して検証する。

(1) 既習事項を生かした学習課題設定の工夫
(2) 生活場面と関連付けた学習課題設定の工夫
(3) 立場や意思を明確にした学習課題設定の工夫

５　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名	概要
5	24	第１回授業研究（４学年　算数科） 授業者　教諭　太田　麻木 題材名　垂直・平行と四角形	自分がかいた図形を用いたり、既習事項の「垂直・平行」に目を向けさせたりすることにより、図形を仲間分けすることを児童から引き出して、見通しをもちながら取り組ませることができた。
6	7	第２回授業研究（要請訪問　３学年　算数科） 授業者　教諭　木村　彩佳 題材名　あまりのあるわり算 助言者　小向　一樹　主任指導主事	実物のあめを提示したうえで、実生活で物を分ける場面を想起させることで児童に意欲をもたせながら取り組ませることができた。また、考え方を共有したうえで全員に選択させ、立場を表明させたことにより見通しをもって問題を解決することができた。
11	16	第３回授業研究（４学年　算数科） 授業者　教諭　加藤　愛理 題材名　面積	既習の長方形や正方形を複合図形の形になるよう意図的に提示したり、なんのために長さを知りたいか問い返したりすることにより、児童自身が考えていることを声に出させ、課題を自分の言葉にしたうえで取り組ませることができた。

(2)一般研修

月	日	研修内容
6	28	救急救命講習会　（講師　八戸消防署尻内分遣所職員）
7	19	ＱＵに関する研修会　（講師　こども支援センター　原　寿　先生）
8	22	幼稚園訪問　（講師　尻内保育園職員　ことり保育園職員）
11	29	特別支援学級公開　本校教諭　いちょう学級　長野　晃子 ゆりのき学級　木村　真由美
2	15	学力テスト分析

６　研究の成果

(1) 既習事項を生かした学習課題設定を工夫することにより、学習のつながりや思考のズレを意識させ、見通しをもちながら取り組むことのできる課題とすることができた。

(2) 課題を生活場面と関連付けて提示することにより、経験をもとに考えることの容易さに気づかせ、より自分の言葉や考えを使った表現をさせることができた。

(3) 立場や意思を明確にさせることによって、個々の考えを友達と交流することの良さに気づかせ、学習への参加意欲の向上と主体的に学ぶ楽しさを実感させることができた。

７　研究の課題

(1) 教師が教材の特性や系統性、児童の実態等の理解を深め、学びの過程を意識した学習場面の設定の仕方を検証することで、学びに向かう力の育成を図る必要がある。

(2) 個々の考えの変容を明確にさせる手立て（ファシリテーション等）の研究を深め、実践・検証することで、他者との関わりの中で自分の考えを広げ、深める力の育成を図る必要がある。

（記入者　岩間　章吾）